

# ニュースレター

## ——新聞から拾う医界の周辺あれこれ——

<15. 11. 1~15. 11. 30>

11月1日

■ぼうこうや横隔膜などの一部が、胃や十二指腸に移植すると移植先の臓器に分化することを、広島大原爆放射線医科学研究所の渡辺敦光教授（実験病理学）がラットの実験で確認。

（日経・共同）

11月3日

■京大医学研究科の本庶佑教授の研究チームは、重症の心臓病である拡張型心筋症が免疫機構の異常によって起きることを動物実験で究明。（日経）

11月5日

■抗ウイルス薬としてC型肝炎治療などに使われるインターフェロンを、人体内でつくらせる制御因子の構造と働く仕組みを、北大大学院薬学研究科の稲垣冬彦教授（構造生物学）と高橋清大研究員らの研究チームが解明。（道新）

11月11日

■かゆみやアレルギーの原因になるダニは、ジャスミンの香りが苦手なことが、家庭用品メーカー「花王」などの研究で明らかに。（読売）

■成人の占める喫煙者の割合が今年30.3%と昨年より0.6ポイント減少し、8年連続で過去最低を更新したことが、日本たばこ産業（JT）の調査で明らかに。（読売）

11月12日

■三菱電機は、天然ハーブから抽出した成分が人体に有害な活性酸素を抑える効果を持つことを、産業技術総合研究所との共同研究で世界で初めて確認。（読売）

11月13日

■北大病院が、心臓から全身に送り出す血液が逆流してしまう大動脈弁閉鎖不全症の患者に対し、患者本人の心臓を取り巻いている心膜を弁につないで新たな弁をつくる手術に成功。

（道新）

■手術が難しい重度の狭心症患者に対して、血管の細胞に変化できる骨髄中の「幹細胞」を増やす薬物を注射し、心臓の血管を再生させることに、岐阜大大学院再生医科学循環器内科の藤原久義教授、荒井正純講師、鈴木幸二医師らの研究グループが成功。（朝日）

11月22日

■東京都神経科学総合研究所の渡部和彦研究員らの共同研究グループが、たんぱく質の一種「メタロチオネイン」に、生物の運動を操る運動神経細胞の死滅を抑制する効果があることを、ラットを使った実験で究明。（毎日）

11月25日

■関節が炎症を起す関節リウマチは、「シノビオリン」と呼ばれる酵素が過剰に働いて悪化するという、これまで知られていない発症メカニズムを、聖マリアンナ医科大難病治療研究センターの中島利博助教授らのチームが初めて究明。（読売）

11月28日

■京大再生医科学研究所の坂口志文教授（免疫学）らの研究グループが、リウマチ関節炎と酷似する症状を引き起こすマウスの遺伝子を究明。（毎日）